

第 93 号【2016/1/1 発行】

発行元：昭和大学横浜市北部病院



●巻頭言

『新年のご挨拶』

- 医師の配属・異動・退職
- 診療統計
- 患者さんからのご意見・ご要望
- 患者さんへのお知らせ
- コメディカルリレー紹介
- TOPICS

2016 年は申年ですね。今年もよろしくお願い致します。

巻頭言

『新年のご挨拶』



病院長
世良田 和幸

皆様、新年明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えて、今年は心躍る年にしたいと思うのは私だけでしょうか？皆様は如何ですか？昨年も様々な出来事がありましたが、今年は昨年の垢を洗い落とし、清々しい一年としたいものです。

昨年は、昭和大学横浜市北部病院も開院後 15 周年を迎え、一つの大きな節目の年でもありました。電子カルテの整備、様々な医療機器のリニューアルをはじめ、病院の施設自体も様々な修繕が必要となっています。しかし、病院職員全員のがんばりによって、いくつかの記録を塗り替えることができたことは、北部病院の今後の可能性を引き出し、まだまだ伸びて行く一つの示唆ではないかと思っています。今後も、5 年先、10 年先のビジョンも踏まえながら病院の機能を向上させ、約 100 万人の人口を抱える横浜市北部医療圏の地域中核病院としての役割を担っていくことを目標として、職員が一丸となって邁進して

いく必要があると思っています。

さて、いよいよ新専門医制度の発足が来年に近づいて来ました。旧制度はそれぞれの基準が学会ごとに異なり、その質のレベルが不統一であったことから今回の新制度に移行することが考えられたと聞いています。これからは、日本専門医機構という新しい機関が専門医を認定することになります。専門医とは、「患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と定義されており、医師としての質の向上と標準化を図ることで専門性を保証することが必要となります。北部病院もこの専門医制度の理念を達成すべく、昭和大学の病院群や近隣の基幹病院と共に専門医としての質の向上と今回新設された総合診療専門医の育成を担う義務があると考えています。

また、昨今の医療業界をはじめとして、2025 年問題が話題になっています。団塊の世代が 75 歳を超え、2025 年には横浜市でも高齢者人口が約 100 万人となることが予想されています。高齢者の増加によって人口構成が逆ピラミッド化し、若い人たちが多くの高齢者を支える構造が明確化になってきました。あと 10 年後のことですが、我々が今、これからの医療を見つめ、予想し、改革できることを推進し、将来のより良い医療を模索し、実践していくことが求められています。

北部病院はまだまだ発展途上の病院です。病院の理念にあるように、心のこもった最高の医療の実践と無事故の病院になることが夢です。昨年、医療事故調査制度も発足しましたが、今後も地域の皆様方に、事故もなく安心と信頼をお届けできるような病院となるべく頑張ります。本年も宜しくお願い致します。

医師の配属・異動・退職

新規配属医師

2015 年 11 月～2015 年 12 月

【新規採用】

- ・奥山 浩（循環器センター）慈恵医科大学 昭和 62 年卒
- ・中川 博文（循環器センター）三重大学 平成 18 年卒
- ・寺田 拓仁（循環器センター）旭川医科大学 平成 24 年卒
- ・阿部 正洋（消化器センター）群馬大学 平成 24 年卒
- ・宇藤 悠（内科）昭和大学 平成 22 年卒

【附属施設より】

- ・榎並 延太（消化器センター）昭和大学病院 消化器・一般外科より

【配置転換】

- ・宮地 英行（救急センター⇒消化器センター）
- ・林 武雅（消化器センター⇒救急センター）

【学外研修終了】

- ・武田 健一（消化器センター）

異動 退職医師

2015 年 11 月～2015 年 12 月

【附属施設へ】

- ・佐藤 好信（消化器センター⇒藤が丘病院 消化器一般外科）

【学外研修】

- ・片岡 伸一（消化器センター）

【退職】

- ・佐々木 佐枝子（麻酔科）
- ・長谷川 澄（メンタルケアセンター）

診療統計

2015 年 10 月～11 月統計データ（）内は 1 日平均

診療実日数 10 月（入院：31 日・外来：26 日）、11 月（入院：30 日・外来：23 日）

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
10 月	28,435 人(1,093.7 人)	17,614 人(568.2 人)	369 件(11.9 件)	626 件(29.8 件)
11 月	26,780 人(1,164.3 人)	17,223 人(574.1 人)	380 件(12.7 件)	697 件(36.7 件)

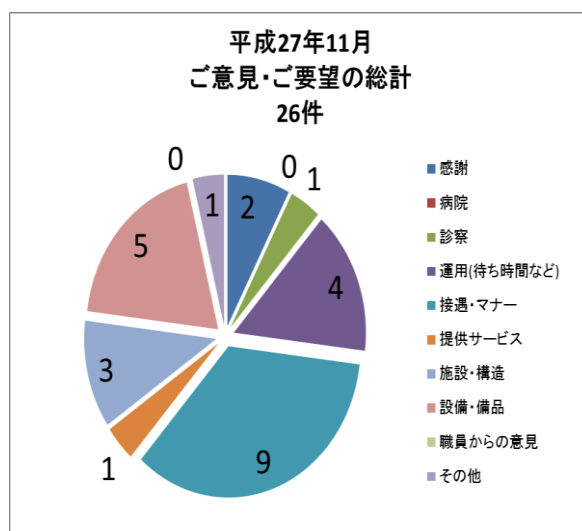
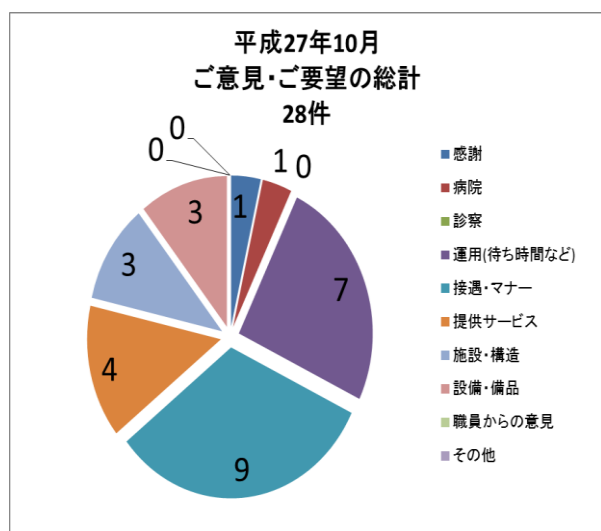
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんより頂きましたご意見・ご要望に関しましては、関連する部署の責任者に報告し改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近多くいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
バスの時刻表をデイルームや1階のどこかに掲示して欲しい。	北部病院前を通るバス（横浜市営バス 308 系統 センター南駅⇄仲町台駅）の時刻表を中央棟地下1階出入口付近、中央棟1階掲示板、各病棟デイルームに掲示いたしました。
待合の椅子に激しい咳をする患者さんがいたが、感染のコントロールはしっかりとなされているのか心配である。	外来で咳症状がある方には積極的にマスクを着用するようポスターで呼びかけていますが、職員の注意や指導が不足している状況があると思われますので、以下の対策を取ることを考えております。 ・11月中に外来看護師、事務職員に対して咳エチケットに関する再教育を行い、症状のある患者さんへ声をかけてマスクの着用を促す。 ・11月のボランティア委員会へ検討事項案として提出し、ボランティアさんたちの協力を得られるようにする。



患者さんへお知らせ

「消化器」、「血液・腫瘍」、「神経」、「糖尿病」、「腎臓」は内科へ

(1)診療科の特徴

当科は、消化器、血液・腫瘍、神経、内分泌・代謝、腎臓、膠原病・リウマチの各専門グループに分かれて診療を行っていますが、細分化された専門領域にとらわれることなく全人的な診断、治療を行うために、横断的なチーム医療を実践しています。

(2)対象疾患／特徴

消化器

上部消化管内視鏡検査、腹部超音波による肝胆膵系検査を中心に消化器系疾患一般の診断、検査、治療を行っています。肝炎についてはウィルスやアルコール、自己免疫疾患など原因によって治療法は異なりますが、肝生検及び抗ウィルス薬やインターフェロン+リバビリン療法、肝保護治療も行っております。肝硬変症に関しては、難治性腹水を来した場合には腹水濃縮再還流療法(CART)や肝細胞癌においては手術適応外の場合、RFA（エコー下ラジオ波焼灼術）やTAE（肝動脈塞栓術）などを行っています。その他、胆嚢炎や総胆管結石、閉塞性黄疸などではERCP（内視鏡下逆行性膵胆管造影）を利用した載石術、ステント留置術なども行っております。

血液・腫瘍

血液疾患としては、慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫等の造血器腫瘍、再生不良性貧血・溶血性貧血等の造血障害、各種止血凝固障害などについて診療を行っています。また産科、小児科との綿密な協力の下、血液疾患合併妊娠の管理を行っています。腫瘍内科では、固形腫瘍（主に消化器系悪性腫瘍）、悪性リンパ腫などを中心に化学療法を施行しています。がん拠点病院として地域の責任を果たすべく、さらなる患者さんへのニーズにあった充実した治療を目指しています。転移性腫瘍の原発巣精査や二次治療以降の治療相談に 対しても積極的に対応しております。セカンドオピニオンに関するご相談ください。

神経

神経内科チームでは神経症候学を重視した診療を行っています。神経内科全般、主にパーキンソン病、てんかん、機能的頭痛、脳血管障害、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、末梢神経障害の患者さんを診療しております。必要に応じて筋生検、神経生検を行っています。

糖尿病

生活・食事指導から薬物療法（内服、インスリン療法）まで含めた予防、進展阻止、及び合併症対策（糖尿病性神経症・腎症・壊疽）、動脈硬化性疾患（冠動脈・脳血管・末梢血管障害）に力を入れて取り組んでおります。糖尿病は、自覚症状がなく見過ごされがちです。しかしながら、何年も放置すると全身の臓器にその影響が現れ、重大な合併症に進展することがあります。健康診断やドックなどで異常を指摘された際には受診してください。また、教育入院も行っております。

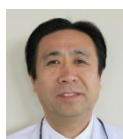
腎臓

腎疾患は様々な原因、疾患を背景に発症するために、腎生検による腎疾患の確定、ステロイドや免疫抑制剤、体外循環療法等を駆使した集学的な治療が必要となります。また、慢性糸球体腎炎ばかりでなく、糖尿病、高血圧や自己免疫疾患等の全身性疾患や合併症による腎障害も診療対象としています。残念ながら末期腎不全に至った場合にも、血液透析、腹膜透析の導入、維持も行っています。さらに増加する長期維持透析合併症（2次性副甲状腺機能亢進症、心血管系疾患、悪性腫瘍、糖尿病合併症、透析アミロイド関連合併症）に対しても、副甲状腺摘除術、心血管障害の診断、治療等、他の診療科・センターと協力して積極的な治療を推進しています。また、シャントトラブルに対するインターベンション治療も積極的に受け入れています。

(3)診療体制



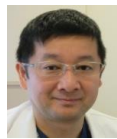
衣笠 えり子
（教授）
腎臓内科、慢性腎臓病、
血液浄化、Ca・骨代謝



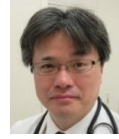
成島 道昭
（教授）
呼吸器内科、医学教育



坂下 暁子
（准教授）
血液腫瘍内科、
化学療法



関川 高志
（准教授）
消化器腫瘍内科、
化学療法



緒方 浩顕
（准教授）
腎臓内科、血液浄化、
Ca・骨代謝

患者さんへお知らせ

「消化器」、「血液・腫瘍」、「神経」、「糖尿病」、「腎臓」は内科へ

(1)診療科の特徴

当科は、消化器、血液・腫瘍、神経、内分泌・代謝、腎臓、膠原病・リウマチの各専門グループに分かれて診療を行っていますが、細分化された専門領域にとらわれることなく全人的な診断、治療を行うために、横断的なチーム医療を実践しています。

(2)対象疾患／特徴

消化器

上部消化管内視鏡検査、腹部超音波による肝胆膵系検査を中心に消化器系疾患一般の診断、検査、治療を行っています。肝炎についてはウィルスやアルコール、自己免疫疾患など原因によって治療法は異なりますが、肝生検及び抗ウィルス薬やインターフェロン+リバビリン療法、肝保護治療も行っております。肝硬変症に関しては、難治性腹水を来した場合には腹水濃縮再還流療法(CART)や肝細胞癌においては手術適応外の場合、RFA（エコー下ラジオ波焼灼術）やTAE（肝動脈塞栓術）などを行っています。その他、胆嚢炎や総胆管結石、閉塞性黄疸などではERCP（内視鏡下逆行性膵胆管造影）を利用した載石術、ステント留置術なども行っております。

血液・腫瘍

血液疾患としては、慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫等の造血器腫瘍、再生不良性貧血・溶血性貧血等の造血障害、各種止血凝固障害などについて診療を行っています。また産科、小児科との綿密な協力の下、血液疾患合併妊娠の管理を行っています。腫瘍内科では、固形腫瘍（主に消化器系悪性腫瘍）、悪性リンパ腫などを中心に化学療法を施行しています。がん拠点病院として地域の責任を果たすべく、さらなる患者さんへのニーズにあった充実した治療を目指しています。転移性腫瘍の原発巣精査や二次治療以降の治療相談に 対しても積極的に対応しております。セカンドオピニオンに関するご相談ください。

神経

神経内科チームでは神経症候学を重視した診療を行っています。神経内科全般、主にパーキンソン病、てんかん、機能的頭痛、脳血管障害、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、末梢神経障害の患者さんを診療しております。必要に応じて筋生検、神経生検を行っています。

糖尿病

生活・食事指導から薬物療法（内服、インスリン療法）まで含めた予防、進展阻止、及び合併症対策（糖尿病性神経症・腎症・壊疽）、動脈硬化性疾患（冠動脈・脳血管・末梢血管障害）に力を入れて取り組んでおります。糖尿病は、自覚症状がなく見過ごされがちです。しかしながら、何年も放置すると全身の臓器にその影響が現れ、重大な合併症に進展することがあります。健康診断やドックなどで異常を指摘された際には受診してください。また、教育入院も行っております。

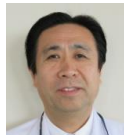
腎臓

腎疾患は様々な原因、疾患を背景に発症するために、腎生検による腎疾患の確定、ステロイドや免疫抑制剤、体外循環療法等を駆使した集学的な治療が必要となります。また、慢性糸球体腎炎ばかりでなく、糖尿病、高血圧や自己免疫疾患等の全身性疾患や合併症による腎障害も診療対象としています。残念ながら末期腎不全に至った場合にも、血液透析、腹膜透析の導入、維持も行っています。さらに増加する長期維持透析合併症（2次性副甲状腺機能亢進症、心血管系疾患、悪性腫瘍、糖尿病合併症、透析アミロイド関連合併症）に対しても、副甲状腺摘除術、心血管障害の診断、治療等、他の診療科・センターと協力して積極的な治療を推進しています。また、シャントトラブルに対するインターベンション治療も積極的に受け入れています。

(3)診療体制



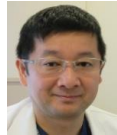
衣笠 えり子
(教授)
腎臓内科、慢性腎臓病、



成島 道昭
(教授)
呼吸器内科、医学教育



坂下 暁子
(准教授)
血液腫瘍内科、
化学療法



関川 高志
(准教授)
消化器腫瘍内科、



緒方 浩顕
(准教授)
腎臓内科、血液浄化、

患者さんへお知らせ

「小児疾患」はこどもセンターへ

(1)診療科の特徴

こどもセンターは、小児内科系医師(新生児科も含む)、小児外科系医師がチームとなって新生児をはじめ小児全般の診療を行うための組織です。従来の診療科の枠を超えて疾患を持つ小児のために最良の医療を提供することを理念としています。各医師の専門性に加えて、チームとして医療を行うことによってより質の高い診療を行うことができます。お子様に最善の医療を提供すると同時に、ご家族の良き相談相手として診療にあたるように努めています。

(2)対象疾患／特徴

1.小児一般外来(平日午前)

■時間外の診察を希望された患者さんも、原則救急外来にて診察します。

2.専門外来(平日午後)

■小児循環器外来(週1回木曜)(先天性心疾患、川崎病)

■小児外科外来

■小児アレルギー外来(週1回水曜)(喘息、食物アレルギー)

■小児神経外来(週1回月曜)(てんかん、神経疾患、発達障害など)

■乳幼児一般健診(週2回火・金曜) ■新生児科発達外来

■小児腎臓外来(週1回月曜)

■予防接種外来(週1回月曜)

(3)初診外来・受診手続き

ご予約は「医療機関から」、「患者さん」の両方からのお電話で承っています。

外来担当	専門	初診担当日(午前)	備考	受付時間	
				月～金	土
梅田 陽	新生児医学、 脂質代謝学、 小児救急医学	毎週月・火・木曜日	予約無しでも可	8:00～ 12:00	8:00～ 11:00
北澤 重孝	新生児医学 (未熟児フォローアップ)	毎週月・水・金曜日	予約無しでも可		
曾我 恭司	小児循環器学 (診断学・川崎病)	毎週火・木曜日	予約無しでも可		
渡井 有	小児外科	月曜日(午後)・ 第1.2.3.5木曜日 (午後)	完全紹介予約制		

コメディカルリレー紹介 vol. 10《感染対策室》

このページでは、病院内の部署・職種を順番に紹介しています。

《人体は菌でいっぱい》

ヒトの体には細菌がたくさんついています。気持ち悪いって？ いえいえ、腸の中、口の中、手足の表面、毛髪の根元など、この世に生きる限り、微生物と縁を切った生存はできません。もちろん、消化吸收を助けたり、悪玉菌の増殖を防ぐなど「体にとって良いこと」をする善玉菌もたくさんいます。さて、病院は体の弱った方が集まる場所。元気な人には問題ない微生物でも、弱った人には悪さをすることがあります。そこで、**悪玉菌や弱った人をいじめる菌が拡がらないようにするのが「感染管理室」の役割**です。

《手洗いは基本の“き”》

患者さんと直接お話しし、手を使った診察・治療が行われる医療の本質は、どんなに文明が進歩しても変わらないでしょう。でも手についた菌や口から飛び出す唾液のかけらは、感染源として注意せねばなりません。そこで対策の第一は手洗い、第二はマスクとなります。一見、マスクは無表情に見えるかもしれませんが、職員は目と声で精一杯コミュニケーションを取ろうと努力しています。ぜひ目を見てあげて下さい。

《チーム医療でいち早く情報を掴む！》

感染管理室の構成員は、感染制御の資格を持った医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師と事務職員。計 10 名近くのスタッフが、病院の内外から切れ目なく情報を収集、います。

近隣はもとより国内外の感染症流行状況を把握、院内への持ち込みがないか監視します。その際、頼りになるのが臨床検査室の病原体検出情報。**臨床検査技師**という細菌検査のプロが、菌の検出から決定までを仕切ります。**薬剤師**は安くて効果的な医療が行なわれるよう、抗生物質の種類、量、投与経路が最適か病棟中を見張っています。熟慮の末主治医が選んだ治療法を、当院での菌検出状況をもとに再チェックするのです。また、手洗いや患者さんの個室収容、ご家族への説明等が適切に行われているかを監視するのが**看護師**の役割。これらの情報は**毎週 2 回開催される「感染症ラウンド」**で集約され、**医師**が対策の指揮をとります。

《みなさんのご協力が必要です》

感染管理のコツは「菌をつけない」「増やさない」「やっつける」の 3 つです。最初のお話のように、ヒトの体は菌がいて当たり前なので、必要以上に過敏になる必要はありません。「問題となりそうな悪玉菌」がいそうな時は情報を出しますので、職員だけでなく、患者さんやお見舞いに来られた方には、手洗い、マスクなど、ぜひご協力を賜りたくお願い申し上げます。

【感染管理室のメンバー】



この他に 2 名の医師と薬剤師がいます。

【感染対策室のロゴ】



このバッチをつけて働いています

TOPICS

地域医療連携フォーラムを開催しました。

「第4回昭和大学横浜市北部病院地域医療連携フォーラム」を平成27年11月26日（木）に開催しました。

講演会では、当院医師から、カテーテル治療について現状をお話しし、地域医療機関の方々にご理解いただくとともに、地域医療機関の医師から地域における在宅医療の現状についてお話しいただき、当院スタッフはじめ地域医療機関の方々にも在宅医療に関する理解が深まりました。

また、懇親会では診療科ごとのテーブルに分かれ親睦を深めることが出来ました。地域医療機関と当院の顔の見える Face to face の関係が築け、相互理解が深まり紹介・逆紹介などの連携の促進につながるものとなりました。

今後も患者さんのために、地域医療機関と当院でさらに緊密な地域医療連携を行っていききたいと思います。



心臓血管カテーテル室
荒木 浩 先生



深澤 りつクリニック
院長 深澤 立 先生



懇親会の様子

東山田中学校の生徒が職場体験を行いました。



平成27年11月25日（水）から26日（木）、横浜市立東山田中学校の2年生4名が当院で職業体験を行いました。

放射線室や薬局の院内見学、病棟、検査室、受付の業務を実際に体験していただきました。今までは患者さんとして病院に来ていましたが、今回は病院で働く人の立場からいろいろな現場をみていただき、皆さん興味津々でした。

右の写真は看護師さんより AED の使い方を教えていただき、人形を使って実際に体験している様子です。初めての体験に緊張の様子ですが、上手く使えているでしょうか。

職業体験を通して、少しでも病院に興味を持っただけなら大変嬉しく思います。いつか一緒に働くことが出来たら嬉しいですね。



TOPICS

イルミネーション点灯式を行いました。

平成 27 年 12 月 14 日（月）に当院毎年恒例のイルミネーション点灯式を行いました。今年は、世良田病院長はじめ病院スタッフによるハンドベル演奏を行い、たくさんの方々に披露することができました。イルミネーション点灯時には、ボランティアさんによるヘルマンハーブの演奏とともにツリーがライトアップされ、院内はクリスマスらしい明るい雰囲気に包まれました。

また、クリスマスツリーの他に中央監視室職員による、今年話題になった人をモチーフにした雪だるまなど、趣向を凝らした素晴らしい作品が正面玄関口付近に飾られ、こちらも人気となっております。



キャンドルサービスを行いました。

平成 27 年 12 月 15 日（火）に昭和大学医学部附属看護専門学校の学生たちによるキャンドルサービスが行われました。今年で 3 回目となるこちらのイベントですが、40 名の学生が 2 つのグループに分かれ、西棟産科病棟・緩和ケア病棟・西 2 階病棟（メンタルケア病棟）・4B 病棟（小児病棟）を訪れました。キャンドルに火を灯しながら『あわてんぼうのサンタクロース』『赤鼻のトナカイ』『ジングルベル』を歌い、クリスマスの雰囲気を病棟に届けてくれました。



編集後記



新年明けましておめでとうございます。

昨年はどのような年を過ごされましたか。昨年を表す漢字が「安」でしたが、安全保障関連法案の採決に国民の関心が高まったこと、世界各地で起きたテロ事件や異常気象などで人々を不安にさせたこと、また、建物の「くい」の工事でデータの流用問題などで暮らしの安全が揺らいだことなどを挙げています。2016 年は「安心・安全な社会を作る思い」が、この字に表れているようです。

当院も皆さんに安心・安全な医療の提供と「北部病院だより」において多岐にわたる情報を掲載していきたいと思えます。

まだまだ寒い日が続きますが、うがい・手洗いでインフルエンザやノロウイルスの予防に努め、この冬を乗り切っていきましょう。

皆さんにとって、良い年でありますように願っております。

広報委員会 委員 東野 由美子

北部病院だより 第 93 号

平成 28 年 1 月 1 日発行

発行責任者 世良田 和幸（昭和大学横浜市北部病院長）

編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。